

ティーチング・ステートメント

所属 理学療法学科
名前 川嶋 恵子
作成日 2023年3月22日

【責任】

理学療法学科に所属し、専門基礎科目である基礎医学系の授業を担当している。主な担当科目は、「基礎生物学」、「生理学」、「病理学」、「内部障害学」、「薬理学」、「公衆衛生学」、「卒業研究」などである。他学科でも「病理学」や「薬理学」を担当している。

また、学生支援センター主任として学生の生活や学業等を支援している。

《エビデンス：シラバス、時間割、辞令》

【理念】

理学療法学科の学生は将来的に理学療法士になることが目的であるため、まずは国家試験に合格してほしい。

また、医療は日々進歩しているので、新しい医療を修得することにより、より良い医療を患者に提供できる。そのためには広い視野を持ち、自ら学ぶことができるようになってほしい。様々な症例に対応できるように、問題点を発見し解決できる能力を身につけてほしい。

【方針・方法】

理学療法士になるためには国家試験に合格しなければならないので、そのために必要な基礎知識を身につけさせる。また、卒業後は臨床でさらに必要な知識を自ら学べるようにする。

方針1 モチベーションを維持させる

- ・国家試験のための勉強は辛いので、少しでもやる気を継続させるために、気軽に何でも相談できるようにしている。（いつでも、勉強以外のことでも話を聞く。）

《エビデンス：訪問記録を作成する。》

方針2 基礎知識を身につけさせる

- ・各授業において先ず何を学ぶべきかがわからない学生がいるため、授業資料の1ページ目に到達目標を記載している。

《エビデンス：授業資料》

- ・授業資料（図や表などを盛り込んで）を作成している。最近の学生は読解力が低下し教科書の内容を理解することができにくいので、図や動画を用いてより理解しやすいように、理解しにくい部分は時間をかけて説明するようにしている。また、授業中に授業の理解度についてアンケートを実施し、理解度の低い学生に対しては、予習として教科書を読むなどの指導をし、わからないことは何かを明らかにできるようにし、授業時間を無駄に過ごさないようにしている。

《エビデンス：授業資料、アンケート結果》

- ・毎回、授業開始時に Moodle で小テストを行っている。それによりまず何を覚えたらいのか、自分に何が必要なのかを認識させる。テストがあることにより学生はとりえず勉強するようになり、学習習慣を身につけさせる。

《エビデンス：小テスト問題》

- ・他の科目との関連性を示している。特に生理学から疾患まで系統的に学べるようにしている。それにより総合的に知識を身につけさせる。

《エビデンス：定期試験の記述問題（総合問題を出题）》

- ・国家試験を意識させるために、どのように出題されているのかを説明している。

《エビデンス：国家試験問題を含むテスト問題》

方針3 問題解決能力を身につけさせる

- ・授業を聞いて分からないことなどを自ら発見し解決させるために、いつでも質問を受けつけている。

《エビデンス：訪問記録を作成する。》

【評価・成果】

- ・昨年度の理学療法士国家試験の結果は1名不合格であった。また、他大学と比較して専門基礎の正答率が高かった。

《エビデンス：予備校で示している大学別合格率結果、厚労省発表の合格者受験番号》

- ・学生からのフィードバックコメントには、「自分にあった勉強のやり方が分かってきた」、「何がわからないのかが分かって質問できるようになった」などのコメントを得た。

《エビデンス：授業アンケート結果》

【目標】

- ・Moodle などを用いたアクティブ・ラーニングをさらに導入し、学生が学びやすく、楽しんで覚えられるような環境を作る。知識を定着させるためには繰り返しが必要であるため、アクティブ・ラーニングを用いて知識を忘れないようにする。まずは新システムのUNIPAを活用できるようにする。（短期目標）
- ・アクティブ・ラーニングなどの講習会に参加し、いろいろな教育方法を学ぶ。（長期目標）